

道づくりだより

第33号

2010. 11 島根県道づくり調整会議



石見西部広域農道 全線開通

CONTENTS

1. 石見西部広域農道 全線開通
2. (一) 木次横田線 郡工区の完成について
3. 都市計画道路 3・4・23 号北循環線整備事業の県道本庄福富松江線取付区間が開通しました！
4. 大万木(おおよろぎ)トンネル(仮称)本杭が県境に到達！
浜田自動車道 金城スマートIC 24 時間化の試行期間を再延長！
5. 「日本風景街道シンポジウム in しまね」が開催されました



いわみせいぶ 石見西部広域農道 全線開通

石見西部広域農道は益田市大谷町地内の国道191号と浜田市三隅町河内地内の県道三隅美都線を結ぶ全長約15kmの農道です。平成9年から整備を進めていましたが、平成22年11月23日に全線が開通しました。



石見西部広域農道

県内位置図



『しまねの農業農村整備

すごろく』キャラクター

ドジョウのどうじょ君

農畜産物の輸送時間が短縮されます

石見西部広域農道周辺の地域では、米、メロン、ケール、トマト、柿、畜産など特色ある農畜産物の生産が盛んです。石見西部広域農道はこれらの産地と集出荷施設、加工施設、県外市場を結びます。



広域農道は中山間地域の幹線道路です

石見西部広域農道は、周辺の広域農道と連携して江津市から津和野町にかけての中山間地域と浜田自動車道や萩・石見空港、重点港湾である浜田港を結ぶ幹線道路の役割も担っています。



～ ～ ～ 開通を記念して、いろいろな行事が行われました ～ ～ ～

記念碑除幕式

農道起点（益田市大谷町）に記念碑が建立され、副知事、県議会議長、益田市長、浜田市副市長、豊川幼稚園児による除幕が行われました。このあと園児が太鼓を披露し開通を祝いました。



開通式と通り初め

益田浜田両市などで組織される推進協議会主催の開通式で、テープカット、薬玉開披が行われました。このあと益田市種村町～浜田市三隅町間の通り初めが行われました。



祝賀会

地域の方で組織される推進委員会主催の祝賀会では、開通を祝う餅つき音頭や石見神楽が行われました。



開通記念の植樹

浜田市三隅町矢原の農道沿線に地域の方と浜田市役所の方がツツジ 29 本を植樹されました。



亀谷橋開通記念式

三隅町内に架かる亀谷橋の橋名板を揮毫した三隅中学校生（揮毫当時は小学生）に記念写真が贈呈されました。



事業概要

事業名：広域営農団地農道整備事業

地域再生基盤強化交付金（道整備交付金）

地区名：石見西部地区、石見西部 2 期地区、石見西部 3 期地区

工期：平成 9 年度～平成 22 年度

延長：15,350 m

幅員：全幅員 7.0 m、車道幅員 5.5 m



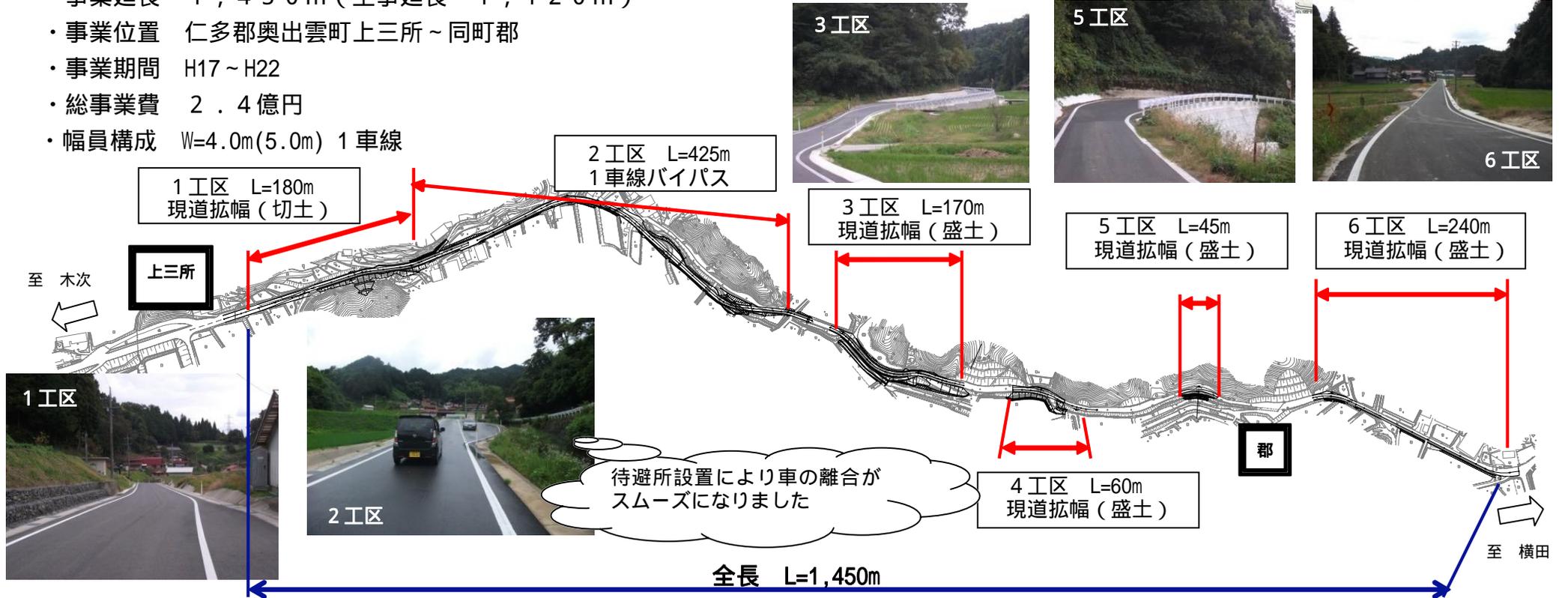
(一)木次横田線 郡工区の完成について

1 事業経緯

現道は道路幅員が狭く車同士の離合が困難な箇所があり、視認性も悪く非常に危険な状況でした。上三所から郡までの延長 1,450m 区間のうち、地元要望等により選定された 6 箇所（延長計 1,120m）を対象として、周辺地域の利用状況等を勘察し必要に応じて道路構造令の規定を弾力的に運用する 1.5 車線の改良による整備方針を適用し、平成 17 年度より事業着手し、この度、平成 22 年 8 月をもって工事完了となりました。

2 事業内容

- ・事業延長 1,450m (工事延長 1,120m)
- ・事業位置 仁多郡奥出雲町上三所～同町郡
- ・事業期間 H17～H22
- ・総事業費 2.4 億円
- ・幅員構成 W=4.0m(5.0m) 1車線



4工区 L=60m
現道拡幅 (盛土)

都市計画道路3・4・23号北循環線整備事業 の県道本庄福富松江線取付区間が開通しました！

【事業目的と役割】

この道路は、県道本庄福富松江線と国道431号川津バイパスを結ぶ重要な幹線道路であり、松江市総合計画の主要事業として市街地の交通混雑の解消を目的に都市計画道路として整備を行いました。

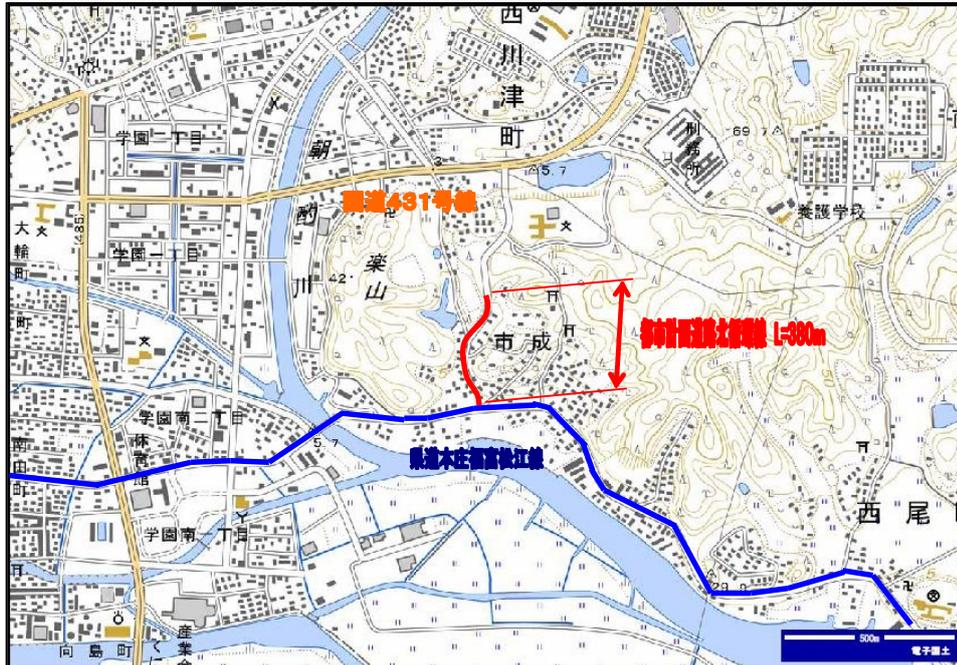
川津地区には、川津幼稚園・小学校、松江市立第二中学校、松江東高等学校等があり、本路線は通学路として特に歩行者や自転車が、また車両通行も非常に多いことから慢性的な交通渋滞が発生し、歩行者の安全確保と円滑な交通改善を早急に行う必要がありました。

本路線の整備により、川津地区の安心で安全な生活環境の創出と地域の活性化、災害時の避難路や緊急車両の通行路としての機能など、多くの効果が期待されています。

【事業概要】

- 事業名 : 都市計画道路3・4・23号北循環線整備事業（市道名：橋本市成線）
- 事業期間 : 平成15年度～平成22年度（7年間）
- 事業区間 : [起点] 松江市西川津町 2587-4 地先（県道本庄福富松江線交差点）
[終点] 松江市西川津町 2514-3 地先（市道柿谷線交差点）
- 事業面積 : 約6,360㎡
- 整備延長 : L = 380m（事業認可延長332m + すり付け延長48m）
- 道路幅員 : W = 16.0m（車道二車線7m、歩道3m + 植栽帯1.5m両側）
- 道路規格 : 道路構造令第3種第3級（設計速度40km/h、A交通）
- 総事業費 : 約10億1千4百万円

【位置図】



平成22年9月1日開通



大万木（おおよろぎ）トンネル（仮称）本坑が県境に到達！

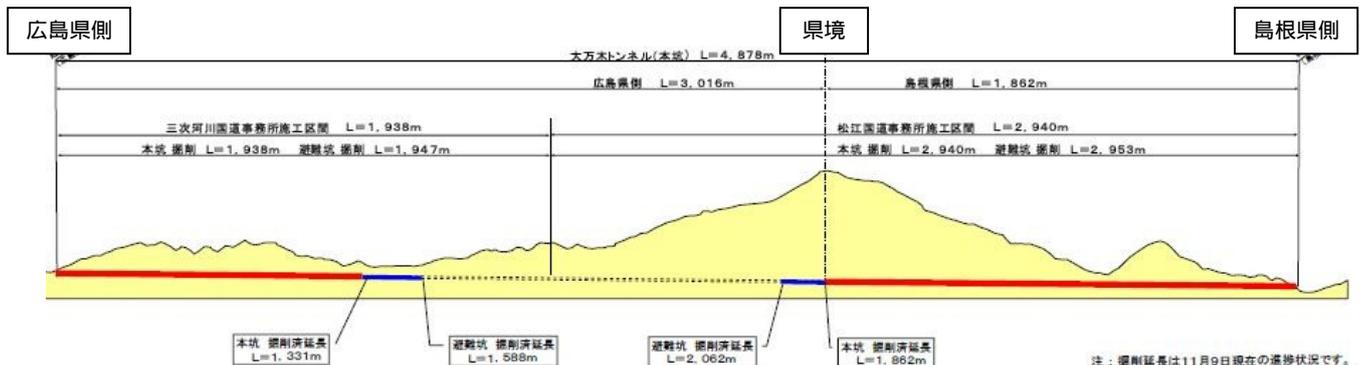
- 中国横断自動車道尾道松江線 -

中国横断自動車道尾道松江線のうち、広島県との県境に位置する大万木（おおよろぎ）トンネル本坑の島根県側からの掘削が県境に到達しました。大万木トンネルは、延長4,878mで完成すれば中国地方の道路トンネルで最長となる尾道松江線を代表する構造物であり、島根県・広島県の両側より工事を行っています。

今回、県境に到達した本坑は掘削幅約13mのトンネルで、平成21年2月よりトンネル掘削に着手しています。現在（H22.11.9）、大万木トンネル本坑は松江国道事務所工事区間1,862m、三次河川国道事務所工事区間1,331mまでの掘削が完了しており、トンネル全体で約65%の工事進捗（掘削延長ベース）となっています。

尾道松江線は、三刀屋木次 IC～吉田掛合 IC（仮称）間が平成23年度、吉田掛合 IC（仮称）～三次 JCT・IC（仮称）間が平成24年度に開通する予定となっています。

<大万木トンネル工事概要図>



浜田自動車道 金城スマート IC 24 時間化の試行期間を再延長！

金城スマート IC では、平成21年10月30日より24時間化の試行運用を実施しています。この試行は、浜田自動車道の利用促進、地域産業の発展への寄与および地域住民の利便性向上を目指すものであり、24時間化による地域活性化への影響、需要の把握、運用時間延長に伴う課題の抽出等を行います。

6月までの試行時間内(22:00～6:00)の交通量は日平均約8台でしたが、6月28日より実施されている無料化社会実験の影響で、7月以降は日平均約30台と4倍近くに増加しました。このため、実験下での冬場の利用状況等の把握が必要であると判断し、平成23年3月31日まで再延長することとなりました。

(当初10月31日まで)

美又温泉、かなぎウエスタンライディングパーク、金城カントリークラブ等へお越しの際は、ぜひ金城スマート IC をご利用ください！



「日本風景街道シンポジウム in しまね」が開催されました

主催：湖水街道推進会議 共催：中国地方風景街道協議会

平成22年11月12日（金）に「日本風景街道シンポジウム in しまね」が松江市のくにびきメッセ国際会議場で開催されましたのでその概要についてご紹介します。

【シンポジウム】

とき：平成22年11月12日（金）13：00～16：30

場所：くにびきメッセ3F国際会議場（松江市学園南1丁目2番1号）

参加人数：約200名

【内 容】

（1）出雲神話紙芝居「くにびきのおはなし」

松田 順（出雲の神芝居一座 座長）

出雲国風土記に記される「国引き神話」を、紙芝居により分かり易く紹介していただきました。



（2）《記念講演》神々の集う国「出雲」 - 神在月の謎に迫る -

錦田剛志（万九千神社・立虫神社禰宜 島根県神社庁主事）

出雲ではなぜ「神在月」とよばれているのか、また、神を迎える神事の意味合いや神様の滞在中はどこに住まれているのかなど、あまり知られることのない謎に包まれた出雲についてご講演いただきました。



（3）《基調講演》「風景・みち・協働」

石田東生（筑波大学大学院システム情報工学研究所教授）

「風景・みち・協働」と題し今後の日本風景街道のあり方についてご講演をいただきました。日本は美しい風景を随所にもちながら、一方で、「風景の衰え」＝「風景の写り込む地域そのものの衰え」が進んでいることを示されました。ハイウェイの整備を進めると同時にバイウェイの活用を進める必要があることを力説されました。そのために、地域の皆さんが「和」を背負って、「ワッショイ」と掛け声をかけて地域づくりを進めていくことを勧められました。



（4）パネルディスカッション「日本のこころを魅了する風景」～聖地巡礼と日本風景街道～

パ° 初 賓 裏宗久（日本風景街道「伊勢街道」連絡協議会会長）

谷越衣久子（日南海岸地域シニツパ° ヲイ推進協議会）

新谷 稔（むれ源平まちづくり協議会会長）

野辺一寛（風待ち海道協議会）

石村隆男（湖水街道推進会議）

パ° パ° イザ° 石田東生（筑波大学大学院システム情報工学研究所教授）

石川雄一（国土交通省中国地方整備局道路部長）

コ° デ° イネ° タ° 三代隆司（湖水街道推進会議座長）

5団体の代表者からは、地域づくりに公民館活動を組み入れたこと、広域エリアで連携していくときのポイント、街道でのおもてなしの工夫など、活発な意見が交わされました。また、アドバイザーからは、地域づくりのキーポイントである「地域資源の掘り起こし」「情報発信」「活動する人」の要素を活かして取り組んでいくことなどの大切さについてアドバイスがありました。

